

家庭の洗濯実態調査

— 本学学生の家庭を対象にして —

西 沢 信・山 宮 三根子

Investigation on Washing at Home
by

Makoto Nishizawa, Mineko Yamamiya

1 調査目的

各家庭において衣類の洗たくはかなり無意識的かつ習慣的に行なわれているのが現状ではないかと思われる。しかし近年閉鎖性水域における富栄養化が問題視され、この現象を促進させる原因の一つとして家庭での衣類洗濯用有リン合成洗剤が挙げられ、これらの使用中止や自粛の動きが各自治体で広がる一方、国でも行政指導に乗り出し有リン合成洗剤の追放運動が活発化している。またエネルギー節約という面からみても洗濯に対する考えも一家庭内の事柄に止まらず、社会的な問題としてとらえねばならない時ともいえよう。このような時に各家庭の主婦は衣類洗たく用洗剤に対しどの程度関心を持ち、理解し、どのように選択購入し、使用しているであろうか、これらの実態を把握したいと考え調査を行なった。

2 調査対象及び調査方法

対象は本学学生の母親とし学生 550 名に調査票を托し、母親による記入を依頼、調査した。回収数は 242 人で回収率は 44.0%であった。なお調査時期は54年12月下旬～55年1月上旬の冬季である。

3 調査用紙

調査用紙の内容は次の通りである（紙面の都合上項目のみを列挙する）。なお電気洗濯機を用いる場合の洗たく（洗剤）に限定して調査した。

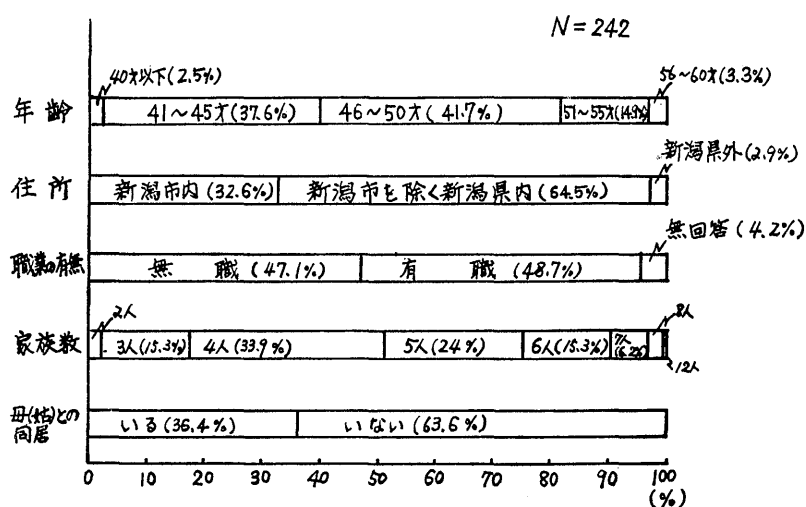
家庭における洗たく（洗剤）についての調査票

- I 年齢，住所，職業，家族について
- II 1. 家庭で使っている洗濯用洗剤（合成洗剤，粉石鹼，これらの両者），粉石けん使用者については使用理由，合成洗剤使用者については将来の粉石鹼使用意志の有無
2. 合成洗剤の社会的問題及びそれらをどのように知るか
- III 1. 洗剤を購入する時の基準
2. 家庭用品品質表示法に基づく表示についての表示のあることを知っているか否か，利用程度，理解度，役立っているかどうか
3. 現在の使用洗剤（商品名）の列挙

- IV 1. 洗剤の繊維，汚れなどによる使いわけ
 2. 対査対象者自身及びそれ以外の1日平均洗濯回数
 3. 小型化洗剤の使用状況，洗たくに際しての使用量
 4. 洗剤量のきめ方
 5. 洗剤の計量方法
 (I及びIII-3以外はいずれも○×記入方式である。)

4 調査結果

1. 調査対象者の諸特性は第1図の如くである。

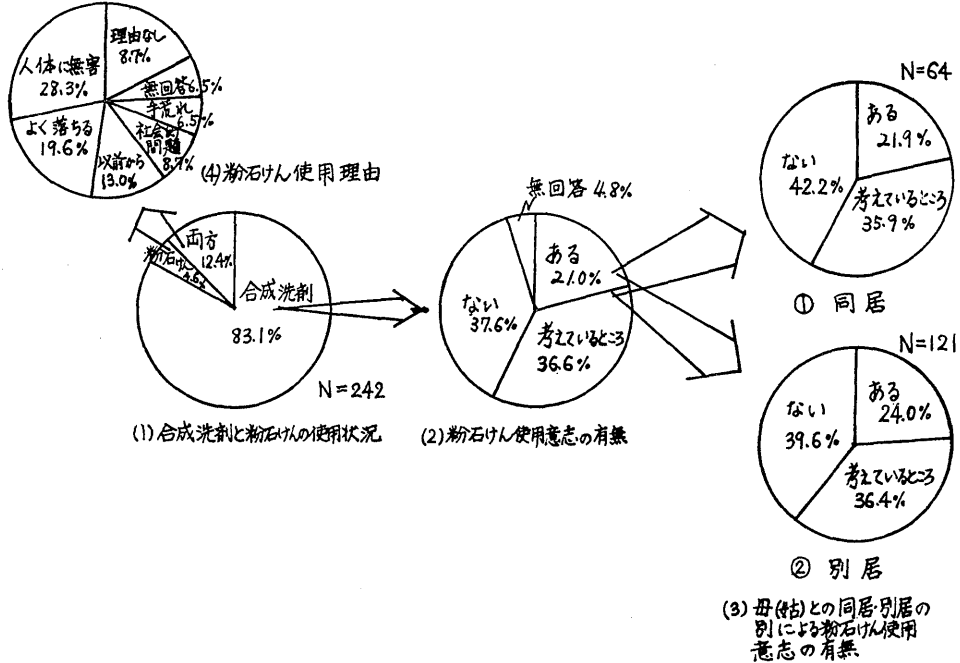


第1図 調査対象者の諸特性

- (1) 年齢：調査対象主婦の年齢は46~50才が最も多く次いで41~45才，51~55才の順でこの41~55才で94.2%を占めていた。また少なくとも19~20才の子供（学生）をもつ母親であり家事経験豊かな主婦である。
- (2) 住所：本学の学生はほとんどが新潟県内であるが新潟市内32.5%新潟市を除く新潟県内64.5%で新潟県外は少なくわずか3%である。
- (3) 職業：対象主婦の職業の有無をみるといわゆる主婦専業と有職者（自営業の場合と外に出て働いている両者を含む）とは大体半数である。
- (4) 家族構成：① 家族数は4人が最も多く約34%，次いで5人の24%，3人と6人が約15%となっている。2人あるいは7人以上は少なく合わせて約11%である。また家族数の平均は約4.7人である。
- ② 母または姑との同居：対象主婦の母または姑との同居についてみると同居が約36%となっている。
- ③ 普段親元を離れている子供の数：普段親元を離れて生活している子供をもつ家庭が約半数でありこれを考慮して普段の家族数をみると約4.1人となる。
2. 合成洗剤と粉石けんの使用状況などについて
 洗濯用に粉石けんを使っている家庭がどの位あり，またどんな理由でそれを使用するようにな

ったのか。さらに現在合成洗剤を使用している者が今後粉石けんに切り換える考えが有るかないか。合成洗剤の問題点を知っているかどうかなどについて質問した。

(1) 粉石けんの使用状況



第2図 合成洗剤と粉石けんの使用状況及び粉石けん使用意志の有無

合成洗剤のみを使用している家庭は201人で83.1%と多いが粉石けんのみの使用とこれら両者を使用している家庭の割合は約17%であった。(第2図一(1))

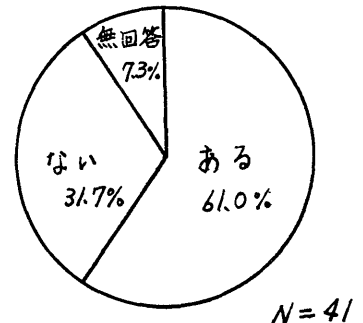
(2) 粉石けん使用理由

① 上記の粉石けん使用者及び合成洗剤と粉石けん両方の使用者に対して質問した結果を第2図一(4)に示す。人体に害がない、手荒れが少ないなど健康面の理由が約35%。前から使用している、理由はないが使用しているとの回答が合わせて約30%である。調査目的で記した社会的問題から粉石けんを使用している者は少ない(8.7%)。また粉石けんの洗浄性がよいと見ている者が約20%あった。

② また現在粉石けんを使用している者の中で過去に合成洗剤を使ったことのない者が約32%あるが多くは合成洗剤のみを使用(61%)していたことがうかがえ何らかの理由により粉石けんに切替えたものと考えられる。(第3図)

(3) 粉石けん使用意志の有無

① 第2図一(2)に見られるように合成洗剤使用者でも今後粉石けん使用意志のある者及び使用を考慮中であると回答している者が205名中約118人(約58%)いることは注目される。新潟大学公害研究ゼミ班の報告¹⁾によると粉石けんは限られた小売店にしかおいてなく使用意志があっても購入しにくいとの



第3図 粉石けん使用者の過去の合成洗剤使用の有無

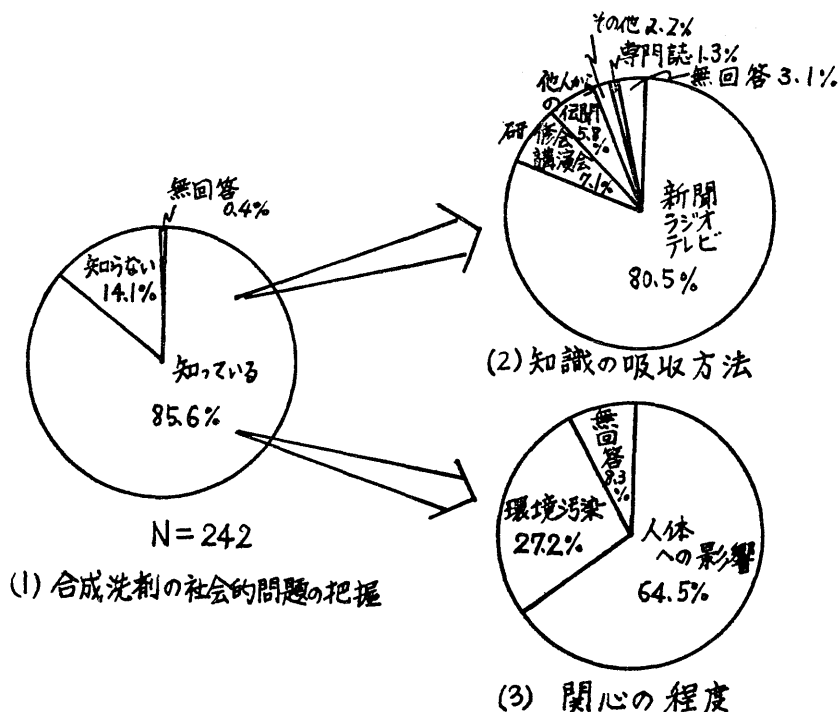
調査結果を得ている。

- ② 現在合成洗剤を使用している対象主婦が母（姑）と同居しているか否かにより粉石けんを使用しようとする気持ちがちがうのかどうか、合成洗剤使用者で粉石けん使用意志のある者について母（姑）との同居，別居でクロス集計したのが第2図一(3)である。考慮中を含め、あるとしているものが同居している場合が約58%で別居の場合の60%をやや下まわっている程度で母（姑）の存在によって主婦自身の考えに影響が及んでいるとは思えない結果を示している。

3. 合成洗剤に対する関心とその知識の吸収法

合成洗剤の現在問題視されている点についていかに関心をもち、またそのような問題を主婦はどのようにして吸収しているかを質問した。

- (1) 合成洗剤が社会的問題としてとりざたされていることに関してはかなりの主婦が知っており（約86%）、知らないものは少ない。（第4図一(1)）



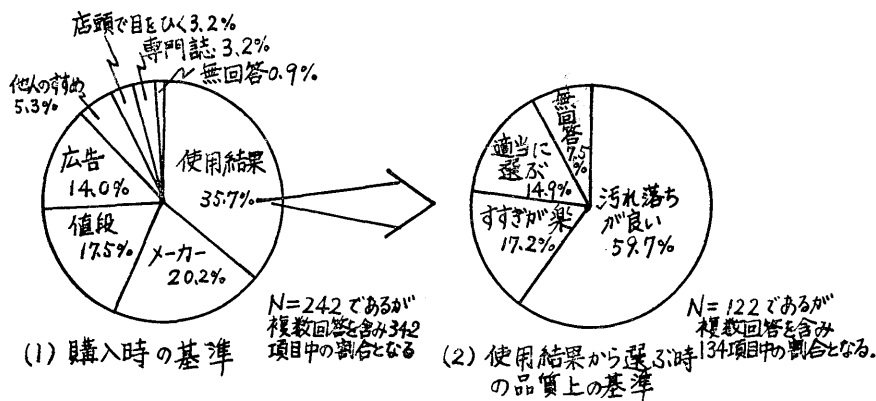
第4図 合成洗剤の社会的問題

- (2) 合成洗剤の人体への影響に強い関心をもっているものが多く（64.5%）、富栄養化に伴う環境汚染については関心が低い（27%）。これは新潟県内には閉鎖性水域が少なく直接的な問題が生じていないことによるともいえよう。（第4図一(3)）

- (3) これらの問題をどのような方法で知るかについては新聞、テレビ、オラジを通してが圧倒的に多い（80%）。しかし研修会、講演会など専門的な面から勉強し、吸収しようとしている者も相当数いる。（第4図一(2)）

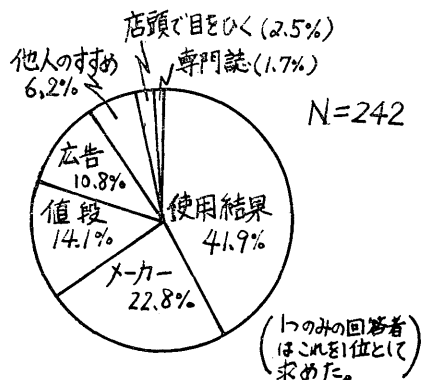
4. 洗剤の購入について

洗濯用洗剤を購入する場合主婦は何を基準に選択購入しているかについて質問した。



第5図 洗剤の購入について

(1) 購入について7項目を挙げ複数回答を可として質問した（これは順位づけである）。第5図—(1)のグラフは順位づけに関係なく、回答している全項目数に対して各項目の回答数がどの位であったかの割合を示しているものである。これから過去の使用結果をふまえて購入するという場合が最も多く挙げられていることになり、次いでメーカー、値段、マスコミによる広告などの順になっている。さらにこれらの7項目中何を最重点にして購入しているかの順位づけて見るために単独回答したものについてはこれを各項目の1位として、順位づけで回答している各項目1位のものにそれぞれ加算して、1位に挙げて



第6図 購入時の基準として第1位に挙げられたもの

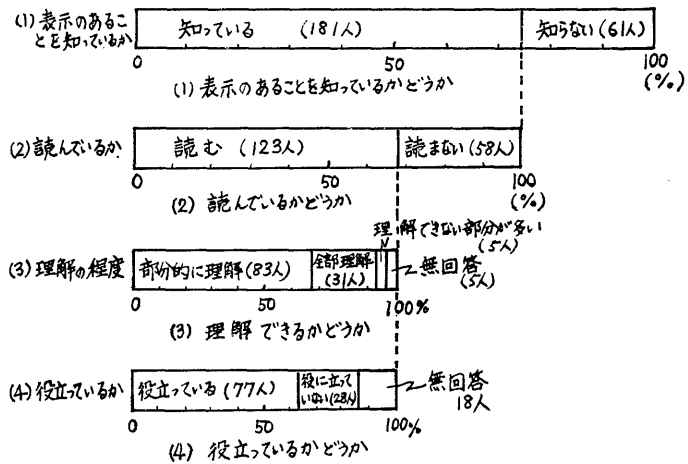
いる項目の割合をみた。この結果は第6図のようになり過去の使用結果を最重点に購入する者が49.1%と最も多い。次にメーカーを最重点に選ぶ者が22.8%、値段によるもの(14.1%)、マスコミの広告によるもの(10.8%)となっている。

(2) 調査票Ⅲ-1により過去の使用結果から洗剤を選択して購入することを1番目に挙げた者の割合が多かったが1位にあげたものに限らずこの項目を回答したもののすべてについて‘使用結果’とは何であるかを洗剤の品質面から4項目あげて選択回答させた。その結果第5図—(2)の如く汚れ落ちが良いが約30%で洗たく本来の作用である汚れが落ちたかどうかに注意が払われていることが推察される。またすすぎの面から泡切れの良いものを選ぶようとしている(17.2%)こともうかがえる。さらに色々使用してみても良否はわからなく適当に選んでしまう者も約15%あった。なお泡立ちの良否で選択するものは皆無に等しかった。これらのことから洗たく、すすぎを通して主婦は当然のことながら洗浄性が優れ、しかもすすぎ時の泡切れのよい洗剤を要求しているよううかがえる。

5. 洗剤の「家庭用品品質表示法に基づく表示」について

洗剤に表示されている「家庭用品品質表示法に基づく表示」についてこの表示のあることを知らないとの回答が全体242人の約25%あった(第7図—(1))。次に「表示」のあることを知っている181人に対して購入または使用前に読むかどうかをたずねた。68%に当たる123人は読んでおり(第7図—(2))、これらの人がこの表示をどの程度理解しているかに対して全部、あるいは部

分的に理解できるとしている者が合わせて92%あった(第7図一(3))。また理解できない部分が多いとした者について記された内容は回答者全部(5人であるが)が成分の項を挙げており特にビルダー成分及びその作用を知りたいとしている。部分的に理解できるとした者についても理解しにくい点は上と同様のようにも思われる。しかしこのような表示も読んでいる人にとってはその約63%が購入、使用

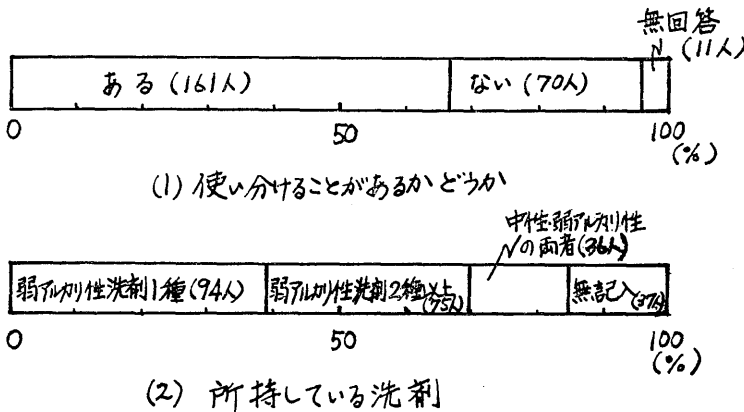


第7図 「家庭用品品質表示法に基づく表示」について

に際して役立っているとしていることは(第7図一(4))、表示の必要性をうかがわせると共により一層消費者の理解しやすい表示を考えねばならないことを裏書きしているとも受けとれよう。これらを調査対象者全体から見れば読んでいるものは約50%、全部理解できるものは約13%、役立っているとする者は約32%であり、これらの表示は概して消費者にとって有益なものとはなっていないようにも思われる。一考を要する問題とも感じられる。

6. 洗たく回数について

洗剤には液性から弱アルカリ性、中性洗剤があるがこれらは用途により使い分け使用されているであろうか。また家庭では絶えずこれらを持ち合わせているのであろうか。主婦または一家庭では1日に何回の洗たくをしているのであろうか。これらについて調査した結果を以下にまとめた。

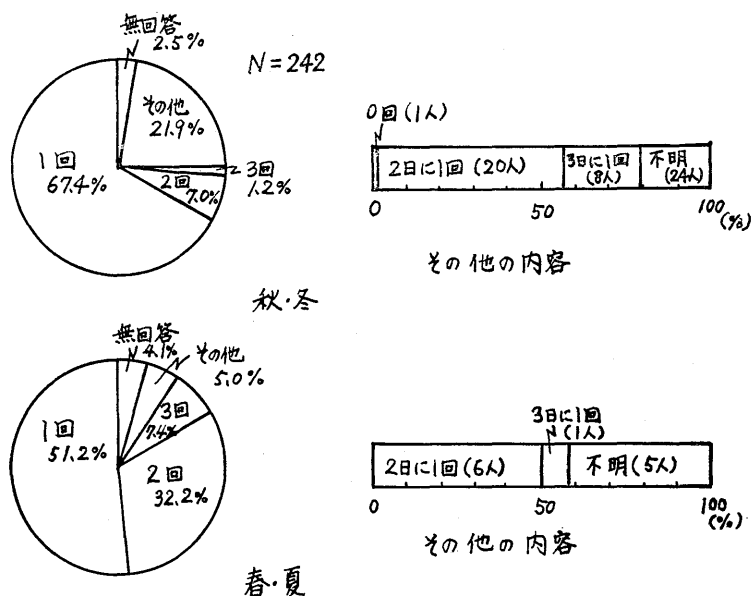


第8図 洗剤の使い分けと所持洗剤

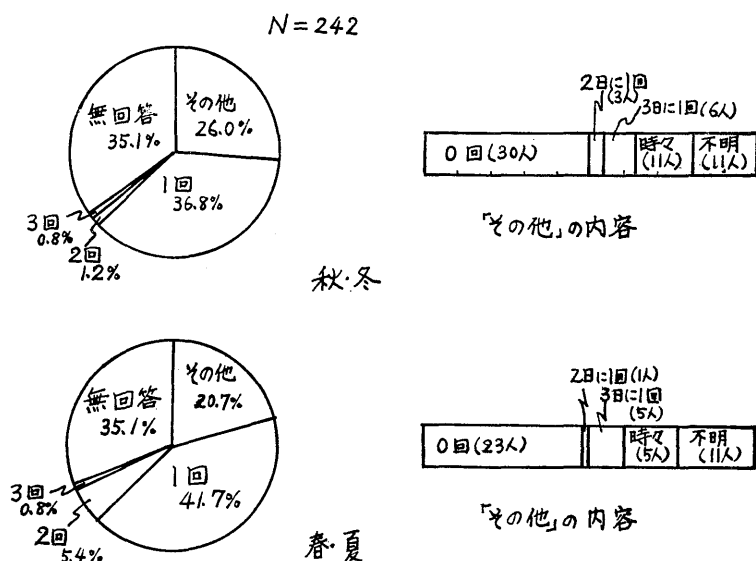
(1) 衣類や繊維の種類、汚れの程度などで洗剤を使い分けて洗たくしているかどうかについては第8図一(1)に見る如く全体の67%に相当する161人が使い分けているとしている。また各家庭で使用している洗剤名を列挙してもらい弱アルカリ性洗剤と中性洗剤に分けてこの面から所持洗剤をみたのが第8図一(2)である。両者を所持しているのは全体の約15%に過ぎず、弱アルカ

り性洗剤1種及び2種以上（メーカーや商品名は異なるが同じ弱アルカリ性のもの）所持が約70%であった。弱アルカリ性、中性洗剤の両者を所持している家庭は少ないがこれは普段常備しておく必要がなく、必要な時その都度購入使用するためか、調査期間が冬季で中性洗剤を用いる洗たく物が少ないためか、全て弱アルカリ性洗剤で洗たくしている家庭もあるのではないかと推察される。しかし調査票IV-1の結果から洗剤を使い分けている家庭の多いことを考慮すれば必要な時に購入使用していると見るべきかも知れない。

(2) 1日の洗たく回数については調査対象主婦及び主婦以外に分け、さらに春夏、秋冬とに分けて調査した。調査対象主婦についての結果を第9図に示した。秋冬には1日1回が70%弱と多い



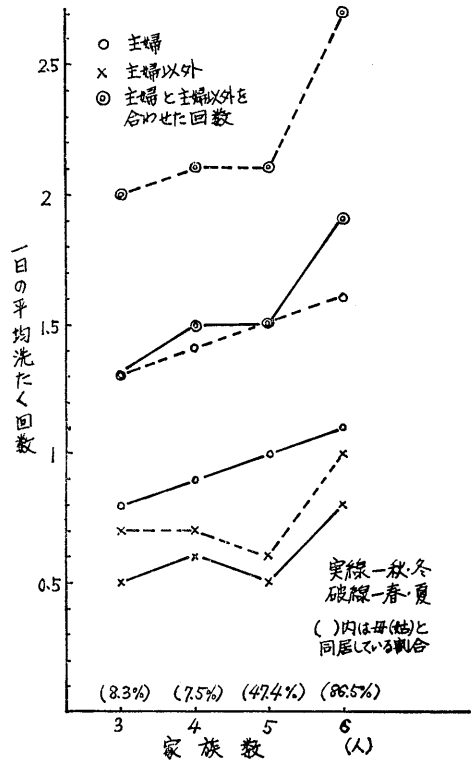
第9図 主婦の1日当りの洗たく回数



第10図 主婦以外の1日の洗たく回数

が、春夏では1回が減り2回、3回が40%で秋冬の約5倍とふえている。このように春夏に比べ秋冬の洗たく回数の少ない家庭の割合が多いことは、洗たく物が秋冬に少なくなるためばかりとは考えられず、雪国といわれる新潟の地域性からくるものであることをうかがわせているともいえよう。また主婦以外の結果を示した第10図では、秋冬より春夏に1回、2回が増えているがこれはむしろ秋冬のその他が減少していることを見れば、秋冬に洗たくをしなかった者が春夏には行なっていると考えるべきであろう。対象主婦自身について、2日に1回、3日に1回と回答した者を考慮した1日の洗たく回数は秋冬では1.04回、春夏では1.49回となり、1日1回は洗たくをしていることになる。さらに主婦以外の場合も加え一家庭内の洗たく回数を同様にしてみると秋冬では1.5回、春夏では2.0回となり、夏季では一家庭で2回程度の洗たくを行なっていることになる。

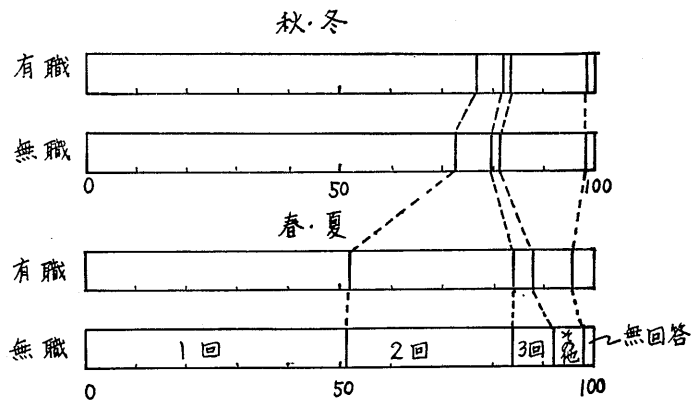
- (3) 3～6人の家庭について家族数との洗たく回数をクロス集計して得た結果が第11図である。主婦自身については秋冬と春夏とも家族数1人の増加で0.1回多くなり、春夏では秋冬より0.5回多くなっている。5人以下の家族では主婦以外の洗たく回数は横ばい状態であり、洗たくはやはり主婦中心と思われる傾向であるが6人家族になると主婦以外の洗たく回数が増している。これは同図中の母(姑)との同居率が6人家族では86.5%と5人以下の家族に比べはるかに高くなっていることによると推察されよう。
- (4) 一方家庭にいる主婦(無職)と職をもつ主婦(有職)について洗たく回数との関係をクロス集計したのが第12図である。秋冬、春夏を問わず家庭にいる主婦の方が2回、3回と洗たくを行なっているものがわずかに多くなっている傾向が見られる。



第11図 家族数による1日の平均洗たく回数

6. 洗剤の使用状況について
主婦は洗たくに際して洗剤量をどのように決め、洗たく機に投入しているであろうか。これを環境汚染防止の一役を担おうとする面の見られる小型化洗剤を中心に調査し普通洗剤との関係もクロス集計してまとめた。

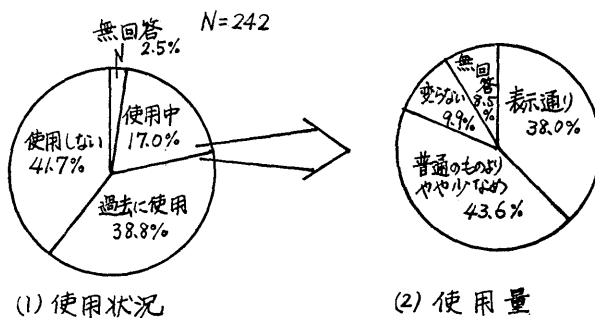
- (1) 小型化洗剤の使用状況を第13図一(1)に示す。現在使用している割合は意外と低



第12図 主婦専業者(無職)と有職者の1日の洗たく回数

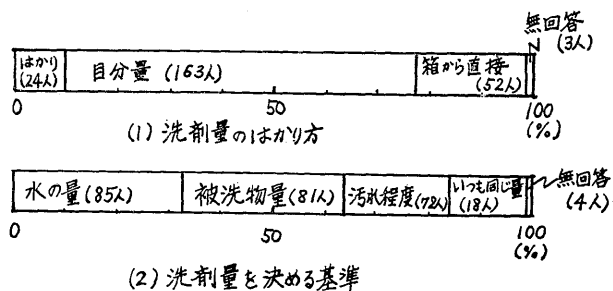
く、過去に使用したことのある場合を加えても調査対象者の約56%であった。これら現在使用している者と過去に使用したことのある者両者に対して使用量を質問した結果、(第13図—(2))表示通り使用している者は135人に対し38%と低く、従来の洗剤量と同量あるいは従来のものよりやや少なめに使用しているとする者が半数以上であった。これは従来(普通)のものに対するイメージから減量できないか、後述の目分量に見られるように計量に対する認識不足によるものかなど考えられよう。概して多目に使われているようである。

そこで洗剤量をどのようにはかっているかについてまとめたのが第14図—(1)である。計量器を使用している者が約10%ある一方、箱から直接投入している者が22%とかなり多い。しかし箱の表示に記されているカップなどによる目分量での場合が67%と多いことは一応洗剤量に関心をもって使用しているといえるかも知れない。また調査用紙IV—2の小型化洗剤使用者(過去に使用したことのある者も含む)についてどのようにはかっているかをクロス集計した結果を第15図に示す。表示にある量を使用していると回答した者(54人)を、やや少なめ(62人)、普通のものと同量(14人)使用と比較してみると、表示にある量を使用している者には計量器使用者が多く、逆に箱から直接投入する者は少ない。このことは洗剤の適正量を使用している者はその量のはかり方にも関心を持っていることをうかがわせるものであろう。またこの事は逆に洗剤の計量の必要性をうかがわせる結果でもあろう。次に以上のような洗剤量は洗たくする

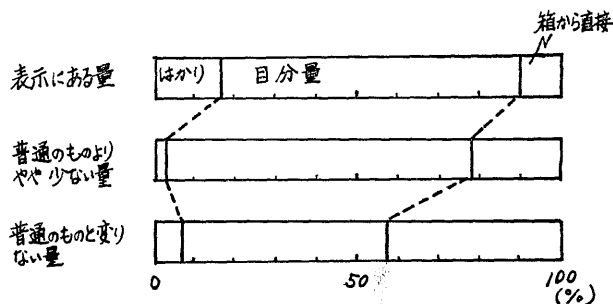


第13図 小型化洗剤の使用状況及び使用量

時をもちに決めようとしているのか。これについてまとめたのが第14図—(2)である。ただこの質問の回答に対して複数回答は242名中14名であったことは図中の結果が各質問事項中最重点として考えている割合を示すといえる。水量、洗たく物の量、汚れ程度によって洗剤量を決めているのがほぼ同割合づつで92%である。これは設問の不十分も加わったが表示にもある水量についての回答が33%にすぎなかったことは予想外であった。洗たくにおける使用洗剤量が基本的にはその溶液濃度であることの知識の不足が考えられる。



第14図 洗剤量のはかり方及びそれを決める基準



第15図 小型化洗剤使用者(過去の使用者も含む)の使用量と洗剤量のはかり方

5 結 語

合成洗剤の追放が叫ばれている中でこのような調査結果を見るに、ほとんどの主婦はその問題点をマスコミにより知らされ、関心をもち、中には石鹼へ切換えようとする者、またそれらの本質を理解しようと自から勉強する者など数多くいることがうかがえる。洗剤購入時の基準は様々であるが少なくとも過去の使用結果をもとに選ぶのに洗浄性の良いものと考えている者が多く見られる反面使用に際し、箱から直接洗濯機へ投入するなど適正量の判断を不十分のまま使っている者も相当数あることも見逃せない。このことは洗剤が絶えず多目に使用され、表示も十分に活かされているとは言えないことから推察し得る。基本的に洗剤の適正量が水量すなわち洗剤溶液濃度によるものであることの理解の不充分さが感じられる。

最後に調査に協力いただいた本学学生並びにそのお母様方にお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 合成洗剤とは何か：新潟大学工学部公害研究会ゼミ洗剤研究班（1979）未発表